

■ 令和元年度 区政懇談会（南中野山小学校区）

日 時：令和元年5月18日（土）

13:30～15:00

会 場：石山南まちづくりセンター



（発 言）

越後石山駅のバリアフリー化が進んでいないため、現状と市の考えを聞きたい。

（回 答）

JR越後石山駅のバリアフリー化（橋上化）は、平成24年度に要望をいただき、これまで「駅舎橋上化・駅広整備地元勉強会」を中心に、事業化に向けた検討を地域の皆様と一緒に進めている。

平成30年度には、東口駅前広場の予備設計を完了させ、石山4コミ協と中央区の山潟コミ協を対象とした全体説明会を開催した。

JR越後石山駅の利用状況や地元の熱意、これまでの検討経過などを踏まえ、区としてはバリアフリー化事業を進めているJR小針駅の事業完了後、JR越後石山駅を事業化することを要望していたが、現在の市の財政状況を勘案すると、令和元年度からの事業化は大変難しい状況になっている。

今後は、地域の皆様とまとめた東口広場の予備設計成果を基に、駅舎橋上化や地域の魅力づくり事業などのソフト事業を含めた検討を継続して行い、その内容を反映させた地域のまちづくり方針を示しながら、早期事業化に向けて関係機関とより具体的な協議・調整を今後も進めていきたいと考えている。

（発 言）

2020年までのバリアフリー化は可能か。

（回 答）

道路計画課が駅のバリアフリー化に向けた全市的な事業方針を検討していくと聞いている。

(発 言)

越後石山駅西口のアクセス道路開通を喫緊にお願いしたい。

(回 答)

平成30年度は、皆様からのご協力とご理解をいただき、越後石山駅西口広場から市道江南石山線手前の市道石山1号線までの工事を完了し、8月20日に供用を開始した。

今後の整備計画は、令和元年度も引き続き、市道への接続部で用地交渉が難航している箇所について粘り強く交渉を進め、了解が得られ次第、支障となる建物の補償調査を行う。その後、用地買収及び建物等の補償、アクセス道路から市道江南石山線への接続に伴う交差点改良を含めた工事を行い、全線開通を目指していきたい。

(発 言)

石山地区には約1万5000世帯があり、約4万6000人の人が住んでいる。そのような地域に交番がないのは考えられず、**地域の安心安全のために越後石山駅前に交番を設置してほしい。**

(回 答)

東警察署設置に伴う交番の再編を行って間もない状況のため、現時点は難しいと警察からは聞いている。警察としては中野山交番の人員を2倍に増やし、平日には相談員の配置による不在対応などの対策を取っていると聞いているが、引き続き警察に要望を伝えていきたい。

(発 言)

地域での活躍が求められる市防災士の会に対する補助金制度を検討してほしい。

(回 答)

防災士とは、阪神・淡路大震災を教訓に創設された民間資格を取得された方で、地域の防災力向上のためのボランティア活動を行っている。

新潟市防災士の会は、防災士に地域の防災リーダーとなってもらうべく、各種取り組みを行う団体として平成27年度に設立され、希望する防災士に加入してもらっている。

本市としても、市内の防災士資格取得を後押しするため、平成25年から防災士資格の取得

にかかる経費について、補助率2分の1、上限3万円の助成を行っている。とりわけ平成26年からの3年間は、受講費用を全額補助して防災士の普及に努めており、このときに資格取得者が大幅に増えた。

会の主な取り組みは、防災士のスキルアップに係る研修などであり、研修は事務局である防災課が市の予算を使って行っている。研修の内容を見ると、年4回、さまざまなことに取り組んでおり、かなり一生懸命であると感じる。

防災士個人を対象とはしていないが、地域における自主防災訓練時の補助対象経費に防災士をはじめとした講師に対する謝礼金もあるので、このような制度をご利用いただければと思う。

(発 言)

これまでも要望してきたが、石山南まちづくりセンターを避難所に指定してほしい。

(回 答)

南中野山小学校が指定避難所となっているが、石山2・3・5丁目から南中野山小学校へ行くには踏切がある。JR新潟支社に確認したところ、災害時であっても踏切は通常どおり作動し、線路を横断できるとの説明であった。また、地震のときは河川の堤防決壊など複合的な被害が考えられが、石山南まちづくりセンターの周辺は浸水区域である。これまでの避難訓練どおり南中野山小学校へ避難していただきたい。

なお、石山南まちづくりセンターへの一時的な避難者受け入れは、同施設を管理する地域の皆様の判断で可能であり、避難された方で住居等に戻れない場合は、備蓄等が整っている指定避難所に移っていただくという流れになっていく。

(発 言)

南中野山小学校まで約1.5kmあるが、過去の災害時において、踏切が開かなかったことが10時間近くあった。それに踏切の警報器が鳴っていると、線路を横断しづらい。また、越後石山の地下道は、自転車は通れないため不便である。そのため、石山南まちづくりセンターを避難所として指定してほしい。

(回 答)

一時的な避難場所としては可能と思うが、備蓄がなく、浸水区域ということから、必ずしも安全ではないため、慎重に判断していかなければいけない。

(発 言)

石山南まちづくりセンターは、車での避難者受け入れができ、芝生があることからテント生活もできるため、避難所に指定してほしい。

(回 答)

避難所とは、自宅に帰れない場合に中長期間にわたり生活する場所である。石山南まちづくりセンターは、一時的な避難場所として受け入れたのち、安全等が確認された場合は、指定避難所に移っていただきたい。

(発 言)

南中野山小学校の正面の道を通って広域農道に出る、本多レディースクリニックそばのT字路は農道からの交通量が多く、危険である。ぜひとも早急に信号機をつけていただきたい。

(回 答)

信号機の設置は警察署の管轄となるが、新潟東警察署は、渋滞及び地域からの要望があることを把握はしているが、県内での優先順位は高くないとの説明である。市としても現場確認をし、警察に状況を伝えていきたい。

(発 言)

赤道と本所排水路の交差点は、本所排水路沿いの通学路、遊歩道を分断する形で赤道が通っているが、遊歩道は直進横断せず、迂回している。この状況は、二つのリスクが潜在的に介在している。一つは、横断しないよう歩行者信号に誘導する看板があるが、交通ルールを守らない状況による交通事故、人身事故。2つ目は、スクールゾーンを違法に通る車両があり、その車両と生徒が接触する危険性である。どのような方向性で検討しているのか。

併せて、夜間、散歩する方も結構いることから、夜間の防犯上の問題から街路灯を整備も含め検討していただきたい。

(発 言)

その地点は通学路であり、そこでの子どもたちの様子を見てみると危険な状態が見受けられることから、信号機の設置をぜひお願いしたい。

(回 答)

平成30年度区政懇談会の議題にあがり、その後、乱横断防止用の注意看板を市でつけさせていただいた。この交差点の課題解決に向けて、自治会、新潟東警察署、区総務課、建設課で現地を見ながら検討を行っている。現地確認の結果からも、新潟港・横越線（赤道）に取り付く本所排水路の側道の幅員が非常に狭く、また、交差点の形状が特殊であることから、交差点の改良自体は難しいところであり、現状としては、現在、北側に設置されている押しボタン式信号機を南側（遊歩道側）に移設することが可能であれば、課題の解決に進むのではないかと考えている。

この件は、南中野山コミ協から新潟東警察へ要望が出されているところであり、区としても、道路及び交通管理者である警察署と情報共有と連携を行い、進めていきたい。

(発 言)

予防の観点で信号機設置をお願いしたい。そのなかで、地域、警察、区の三者での協議が大切であるので、協力をお願いしたい。

(回 答)

三者協議により可能な方向性を検討したい。

(発 言)

栗の木川沿い（土手）のガードレールが一部ない区間があり、そこは冬になると道路の端に車が落ちていることがある。なぜガードレールがない状況なのか知りたい。その区間についてもガードレールを設置してほしい。

(回 答)

平成29年度から区政懇談会でご要望をいただいております。平成30年度の区政懇談会にて、個人の土地であり、市道ではないため、ガードレールの設置はできない旨の回答をしたが、土地の権利関係は複雑で、詳しく調査したところ、水路用地があり、土地は市が管理を行っていることが分かった。調査が不足であったことをお詫びしたい。

農業用水路の関係であることから担当課は江南区の産業振興課になるので、要望を伝えたところ、江南区でガードレールを設置する方向で検討するという話があった。江南区と連携し、設置に向け進めてきたい。

→江南区役所産業振興課で検討中。

(発 言)

もえぎ野1丁目から亀田中島に向かう道路で、江南区側の道路は除雪してもらえるが、東区側は除雪がないので除雪してもらいたい。

(回 答)

江南区側の道路は、合併前から除雪しているためであり、市全体における除雪の考え方は、東区側は除雪できない。